

§ 1 羅漢石仏に迫る

1-1

I. 史跡羅漢石仏を歩く VTR

約20体の仏像

A 釈迦三尊像 中心 釈迦如来像、

右 文殊菩薩…知恵の象徴

左 普賢菩薩…あまねく賢く、
慈悲と知恵で人々を救うB 十六羅漢 羅漢とは…阿羅漢（アラハン）の略
アラハットのこと、悟った人、覚者
仏教では、釈迦の代表的な弟子。記録によりもとは五百羅漢。これが散逸して現在のようになった。
五百羅漢は最初に経典を書いたときの弟子C 18世紀に立ち寄った僧侶の感想
筑紫（九州北部）の羅漢石仏に劣らない。
これを知る人が少ないのは不思議
※筑紫の羅漢…福岡県山野若八幡宮境内のもの？

II. この仏像を造った人は一体誰？

①現在の学問では、

戦国時代に真言宗の山伏が制作？

②伝説と記録

A 『峰相記』に伝える伝説

※峰相記…1348年頃峰相山鶏足寺の僧侶が著したとされる地誌。
歴史的な内容伝説も多く掲載えべん（えびん） えそう くだら こうくり
恵便、恵聡 百済の僧（書物によっては、高句麗の僧）
播磨に滞在、仏教を広めるため、石仏を造る

◆地図1 6世紀の朝鮮半島

III. 恵便伝承

- A. 『日本書紀』の記録（奈良時代720年に政府が編纂した歴史書）

播磨に滞在、

584年蘇我馬子そがのうまこに招かれ、百濟からもたらされた仏像を祭る責任者に

- B. 西有年 偏照院に伝わる伝承

聖徳太子と同時代に建立

- C. 赤穂市長安寺の由緒

※長安寺…現在は赤穂市尾崎の普門寺に合併

恵聡とともに、物部氏の仏教弾圧を逃れ、坂越さかしに来着
熊河内に住む

聖徳太子がこれを聞いて、訪ねてくる
熊に導かれて恵便らに会い、建てた寺が長安寺の前身

大崎昌善、薬師如来の夢を見て、長安寺に由緒書を奉納
大崎の先祖は秦河勝に仕え、代々瓦師。

- D. 加古川市鶴林寺かくりんじに伝わる伝承

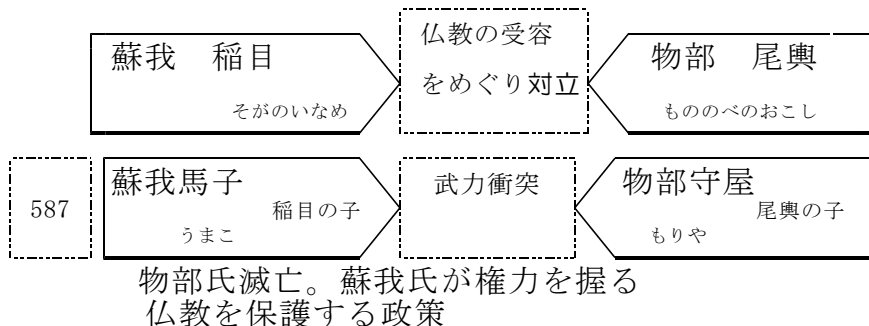
蘇我氏と物部氏の争いを避け、播磨に隠棲

聖徳太子が、恵便に教えを請い、訪ねてくる
後に聖徳太子の建てた寺院が後の鶴林寺

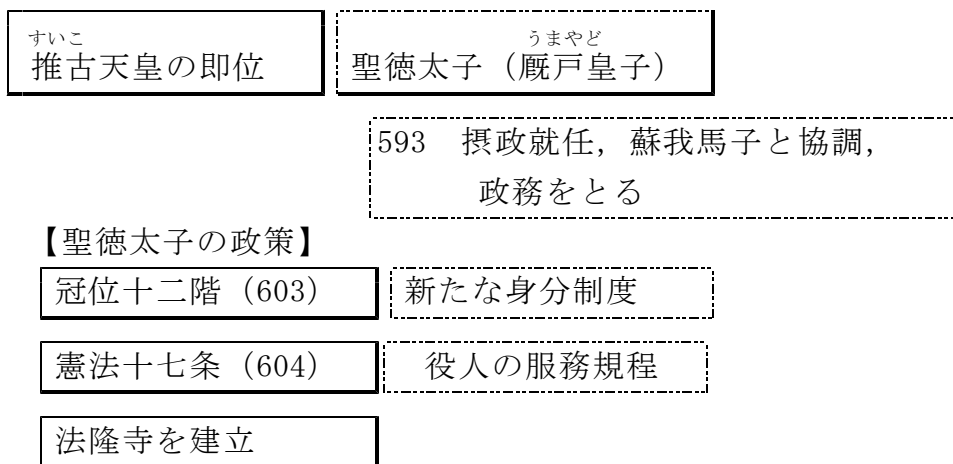
- E. 加西市奥山寺おくざんじに伝わる伝承

恵便がこの地の谷に聖徳太子の像を造り安置、
この像が651年、法道上人が天竺から飛来して、
この像を見つけ、奥山寺を建立

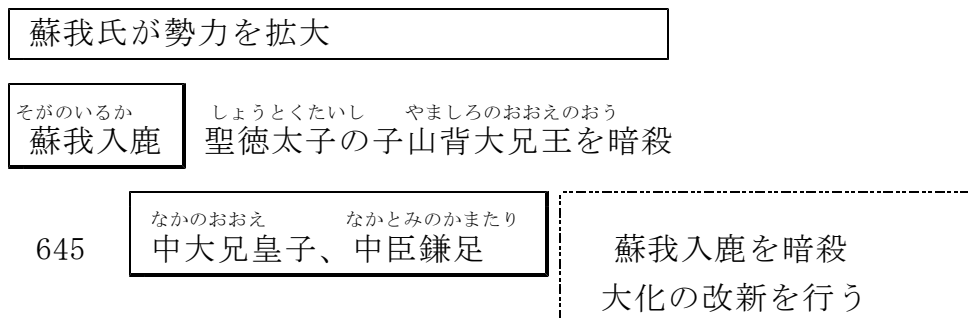
6世紀の諸豪族の対立



聖徳太子の政治



聖徳太子の死後



§ 3 秦河勝とは 渡来氏族秦氏とは 1-4

かつて、赤穂郡の一角であった相生市矢野町。ここには中世、矢野荘が存在した。この赤穂郡を開発したと伝えられる秦為辰の伝承が生まれる背景には、ここを開発したといわれる秦一族の活躍がありました。赤穂郡に流れ着いたと伝えられる秦河勝。どんな人物なのでしょう。

I. 秦氏の渡来

『日本書紀』の記載 ※日本書紀…奈良時代720年に政府が編纂した歴史書

応神天皇の時代、百済から弓月くだらの君ゆづきのきみ（秦氏の祖）が渡来

従来の学問での通説

4世紀末～5世紀に朝鮮半島から渡来、

数度にわたって渡来したという説も

但し、韓民族かどうかは不明

秦の始皇帝の子孫と称する。

※佐伯好郎氏（旧東京文理科大学 教授）の説

弓月国きゅうげつ（クンユエ）から、中国・朝鮮に移動、さらに日本に渡来

※弓月国…3～6世紀に存在した中国ウイグル、カザフスタン付近の
原始キリスト教（景教）の国

II. 応神天皇の時代（聖徳太子の時代より約200年前）

不明な点が非常に多く、謎に包まれている。

通説では、4世紀末～5世紀の天皇として在位し、

弓月君ゆづきのきみ、阿知使主あちのおみ、王仁わになど渡来人がやってくる。

この時期から、近畿地方での大規模な開発伝承が急激に増加、

鉄製農工具、武具が普及する。

いわゆる巨大古墳が沢山造られた時代。

従来、仁徳天皇陵、応神天皇陵はこの時代のものとされてきた。

Ⅲ. 秦氏の足跡

1-5

A. 財務関係

さけぎみ
秦酒君が天皇に貢物を献上、その後、諸国の貢物が満ちあふれ、
新たに大蔵を設置した。

B. 土木技術 『秦氏本系帳』

※『秦氏本系帳』奈良時代に政府が各氏族に提出させた系譜の一つ

京都市桂川（大堰川）の堰を造営した伝承

葛野の大堰をつくること、天下に比べるものがあるだろうか。これは、
秦一族を率いて秦の昭王にならって増築したものである。

秦氏の造営した堰はVTRに見える堰の上流にあったと伝えられる。

この造営により、標高が高く、水を引きにくく、水田の開墾が
困難であった嵯峨野の開発が進行した。

平安期に矢野荘を開発した秦為辰の技術も、この延長線上ではないか。

Ⅳ. 秦河勝

聖徳太子にも仕える。『元興寺縁起』では軍政官であったとも伝える。

『日本書紀』603年の記事

聖徳太子から仏像をもらい受けて、京都太秦に広隆寺を建立。

広隆寺弥勒半跏思惟像。

日本にはみられない赤松材を使用。韓国慶州博物館に類似した
仏像がある。

※弥勒菩薩…サンスクリット語では、マイトレーヤ
56億7千万年後に人々の前に現れて、
多くの人を救済する伝説

Ⅴ. 大酒神社と大避神社

京都市右京区大酒神社

秦氏の定住・開発とともに祀られた？

祭神 秦の始皇帝、弓月君、秦酒君

赤穂郡の大避神社

京都の大酒神社と同一の系統

オオサケとは？

1. サイノ神、道祖神、サケノ神のなまり
旅人の安全、疫病の侵入を防ぐ
2. 避けは土地を切り開く意味。
秦氏が先進的技術で土地を開発したことを示す
3. 大避＝大關
佐伯好郎氏の説
大避＝大關 中国ではダビデのことを大關と記す

この地域の秦氏の活動ぬきには語れない。
秦氏の開発・定住とともに、
さらに秦氏の末裔を名乗る人々により各地に祀られる。

§ 4 赤穂郡での秦河勝の痕跡 大避神社 1-7

赤穂郡の秦河勝伝承

A. 秦河勝 『相生市史』が記載した地元の口伝

そがのいるか
蘇我入鹿との対立、大和を追われ、相生の地に住む
なば 那波の白鷺鼻に住む。おおさけ 那波の大避神社がその地。

後、赤穂市坂越に移ったという。

B. 秦河勝 相生市若狭野の大避神社の伝承

まつ
大避神として祀られている秦河勝は、赤穂市坂越に流れ着く
この頃、魚がとれなくなったので、秦河勝の仕業として、
現地の人々は、河勝を殺そうとした。

覚悟した河勝は、この世の名残として笛を吹いたところ、
海中から魚が踊り出して、殺されずにすんだ。

河勝が、この地をめぐったときに宿にしていた若狭野に、
つた
神社を建て、土田大明神とした。これが、若狭野の大避神社。

C. 秦河勝 養蚕を伝えた伝承① 相生市若狭野の大避神社の伝承

河勝が狩りで三濃山、矢野をしばしば訪れ、若狭野の人々に養蚕を伝えた。
人々はお礼に、土段を設けて宴会をした。人々はこれを偲んで後に土段の宮
を建て、これが土田の宮とつた呼ばれるようになった。現在の若狭野大避神社。

D. 秦河勝 養蚕を伝えた伝承② 赤穂市西有年の野々宮（大避神社）

人々に養蚕を伝える。これを感謝して大避神社を建てる。河勝は、この地
に鮎狩りも来たという。

E. 秦河勝 温泉に入った伝承 赤穂市中山 湯谷宮（大避神社）の伝承

この地で温泉に入る

秦河勝の従者の伝承① 稲垣氏 若狭野 稲垣公廟

秦河勝の従者、稲垣氏が、この地を開墾したが、過労のため亡くなった。
開墾のときに掘り出した石を山にして、祠を建てた。これがいながきこうびょう稲垣公廟。

秦河勝の従者の伝承 山本氏系図

※先に紹介した長安寺の由緒を伝えていた
赤穂市の大崎家の先祖は秦河勝に仕え、代々瓦師。

河勝の従者が赤穂郡、その周辺に定住した伝承

A. 山本高安の赤穂郡来着

ぎょうぶきょう
山本刑部卿高安は秦河勝の従者で、河勝に従って、坂越に来る

河勝は坂越に住み、高安は赤穂市高野に住む

入野近辺で雨にあい、宿をとる。これが雨内の地名の由来。

B. 河勝の死後、各地に大避神社を建立

坂越の大避神社を建てる

山本氏を中心に、赤穂市木津の大避神社、土田（若狭野）大避神社を建立

C. 山本高安の子孫

長男常清…雨内、

次女……………赤穂市高野

三男高安…赤穂市木津に

四男弥藤…相生市矢野町榊

※法林寺（相生市矢野町榊）伝承
山本一族の一人が榊に住み、法林寺の祖に

※教証寺伝承（相生市雨内）
高安の末裔十代の九郎兵衛が雨内の教証寺

五女……………揖保郡原

※揖保郡神戸村原の山本家（屋号本陣）も系図に同様のことを記載

赤穂郡に広がる大避神社と開発

1879年、赤穂郡神社明細帳 総数231社中、大避神社は21社

千種川水系に沿って赤穂郡全域に分布

後世になって、建立されたもの、があるものの、

この地域の秦氏の活動ぬきには語れない。

秦氏の開発・定住とともに、

さらに秦氏の末裔を名乗る人々により各地に祀られる。

秦為辰の矢野荘開発伝承も、赤穂郡での秦氏の先進的な技術による開発を
ベースに生まれた